

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901555		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム あけぼの		
所在地	旭川市亀吉1条1丁目2番1号		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901555-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 24年 11月 13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の	63	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある	64	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように	
		<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/> 3. たまにある			<input type="radio"/> 3. たまに
		<input type="radio"/> 4. ほとんどない			<input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	65	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	66	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	67	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	68	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が	
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が			
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・ホームの理念・ユニット目標・センター方式5つの視点を事務所内に掲示し、毎回申し送り時に必ず唱和している。又、職員1人1人が理念を意識しそこに向かえているか定期的に確認・検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し新年会・公園清掃・盆踊り大会等町内会で行っている行事にも利用者と共に参加している。又、地域の小学生がホームに遊びに来たり、町内の盆踊りでは職員が太鼓の叩き手としても参加する等日常的に地域と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内では、認知症の人に対して支援方法を議題として取り上げ、情報を発信している。しかし、運営推進会議へ出席された方以外に対しては、発信出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で実施した行事等の取り組みや、利用者の日常生活の様子を報告を行っている。ご家族様等から頂いたご意見・ご要望は責任者会議やユニット会議等で検討しサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ市役所介護高齢課の職員の参加を頂いている。又、市町村主催の研修にも積極的に参加し、疑問点等は市町村の担当者に連絡・相談を行うようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で身体拘束をしないケアに取り組み、また鍵をかけないケアを実施している。利用者が出て行く時に音が鳴りわかるようにしている。職員全員で身体拘束の研修、勉強会等を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、職員間でコミュニケーションを密にし、利用者の身体をよく観察、異常があれば速やかに管理者へ報告が行くよう体制が出来ている。又虐待防止等の勉強会も実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての学びの機会を持っていない。後見人のついた方の入居の予定がある為、会議で議案としてあげ、学びの機会を持っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書と共に一項目ごと説明している。又、説明書を自宅に持ち帰ってから疑問がある場合は、連絡を頂き再度説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、苦情窓口も設けている。家族来所時や、運営推進会議でも意見を拝聴させて頂き検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の責任者会議で、運営に関して話をする時間を設け意見があった際にはその都度、運営本部へ上申している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、クリニカルラダーを実施。個人目標を立て、管理者が面談することにより目標達成への意識を高めている。またキャリアパス制度を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修会の知らせはユニットごとに掲示し、研修を希望する者は積極的に参加出来るよう取り組んでいる。また、教育委員会が中心となり毎月2名づつ職員が講師となり内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー研修・実践者研修等への職員の参加で、他事業所の職員との関わりを持つ場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の推進事業部渉外担当者と連携を取り、見学や面談する機会を設けている。本人の要望を繰り返し確認していく事で信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にサービス計画の説明・リビングウィルの確認を行い、ご家族の要望を聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人の強みを活かし訪問看護・往診などご本人やご家族が必要とされている支援が適切に利用できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事のお手伝いや、時には自室の掃除等を職員と共にしないながら支えあい、日常生活を共にしながら喜怒哀楽を感じている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や電話連絡、面会時に情報提供を行い受診や外出・外泊のご協力を可能な範囲でお願いしている。また、担当者会議を開催しご本人について一緒に検討する機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時、友人宅や自宅、行きつけの床屋やスーパー等、その近郊へ散歩や外出が出来るよう、個人の生活習慣を尊重し支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し場合によってはスタッフが仲介に入り良好なコミュニケーションがとれるよう雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に退去された場合等、職員病院に面会に行き、記念の写真アルバムや千羽鶴を贈る等し、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメント・家族からの情報を元に、本人の希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを実施し、なじみの暮らしの把握にも努め生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のホームでの暮らしをよく記録・観察し、職員間での情報共有を十分に行ないながらセンター方式で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族・職員にも意見や要望等を伺い、担当介護員・計画作成担当で原案の作成。担当者会議を行い再度、本人・家族から意見を伺い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独自の生活シートを用いて日々の状況を記録し、個々の利用者のケアのヒントや、評価を行い計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退去され、他事業所へ住み替えをされた後に亡くなった身寄りの無い方への支援を実施した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署職員を迎えての年2回の避難訓練、町内会行事への参加、近隣のパークゴルフ場での遊戯、町内の商店へ散歩も兼ね入居者様のタバコを買いに行く等、季節を感じられる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携・定期往診を利用し、緊急時はすぐに24時間365日相談・対応出来る医療連携体制の構築が出来ており、医療面の充実を図っている。又、なじみの関係が継続出来る様に以前のかかりつけ医との連携ができるようにも支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行なっている看護師と24時間連絡が取れる体制が出来ており、体調悪化時や些細な事でも相談し必要な医療又は受診が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	推進部渉外担当と連携を図り、病院関係者との連絡・相談を行っている。また、入院中利用者との関係が途絶えぬよう職員が交代で面会に行き、ご家族とも連携しながら早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、事前に終末期の意志を確認し書面に残している。その時期が来た場合には再度意志を確認し医師や家族も含めたチームでの支援を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策委員会が中心となって、普通救命講習を開催。全職員受講を促している。内部研修会においても、急変時の初期対応等を学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署職員立会いの下、日中・夜間想定で訓練を行なっている。運営推進会議の際に避難訓練を地域住民へ公開している。さらに火災自動通報装置の連絡が町内会長へ届くように体制を強化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対しての尊厳ある言葉使い、自尊心を傷付けない対応に努めている。内部研修会で入居者様との適切なコミュニケーションに関する講義を行い、さらなる質の向上を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいよう選択できるような声掛けを日々行なっている。（どこで過ごしたいか、何をしたいか、何を飲みたいか等）個々の希望を尊重した生活へと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・外出希望があった際は、その日のうちに実行出来る様に、時間をご本人と相談し決めて外出支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容にて希望された髪型にカット・カラー等を行って頂いている。馴染みの美容室への外出支援も実施。衣類・アクセサリー類の購入希望があれば、買い物の支援の実施、通信販売での購入も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や食事の片付けをコミュニケーションをとりながら利用者と一緒に行っている。献立により、好き嫌いがある場合には本人の意見を聞き、食べられる物を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者へ依頼し、献立と食材を納品している。トロメリン・寒天等を使用し、形態を変える事により水分量が確保出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行えるよう促している。個別の能力・ニーズに応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをきちんと把握し、極力トイレでの排泄が行なえるよう支援している。その人その人に合ったオムツ等を使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な散歩や運動、乳製品やオリゴ糖、食物繊維や十分な水分摂取が出来るよう努めている。さらに看護師と連携を取り排便コントロールの相談を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本となる入浴日を決めてはいるが、本人の希望を優先して対応する。また好みの入浴剤を入れ、入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の声かけや、落ち着いて眠れるよう体調や希望を含め支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供所を生活シートと一緒にファイリングし、職員が副作用等の確認が出来るよう整備している。服薬管理はマニュアルに沿って行い、症状の変化があれば医療機関に相談できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・調理の手伝い・畑作業・裁縫・散歩・図書館・科学館・映画館・外食等その利用者の力や希望に合わせて支援している。さらに内部研修会で入居者様の生きがい・アクティビティに関する講義を実施し、考える場を設けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	サービス計画書へ外出支援のプランを取り入れ、希望時の外出支援が行える体制をとっている。またご本人の希望・思いを毎月のご家族の手紙で報告し、協力を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約の際、預り金についての説明・同意を頂き、可能な限りご本人が満足出来る様にご家族からの理解を得ている。また、ニーズに合わせお小遣いを所持し買い物へ出かけられる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、入居者様からご家族へ手書きの年賀状を送っている。希望時にはいつでも家族や知人に電話が掛けられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事係と環境美化委員が中心となり、施設内外の環境整備を行っている。季節に合わせ、雛人形・クリスマスツリー・七夕飾り等を実施。さらに定期的に温度・湿度の計測・集計を行い、居心地の良い生活環境の整備を図っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙所や、ソファを置き気が合う利用者同士で対話が出来ようになっている。又、廊下奥にソファを設け、1人になれる場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂き、馴染みの使い慣れた物や好みの物を入居時に持参して頂き、居心地よく暮らせるよう努力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時に障害となるような物は置かず、トイレ・浴室・廊下等に手すりを設け、安全に自立した生活が送れるよう努めている。		